

近年におけるわが国経済の進展と、これにともなう民度の向上は驚くべきモーター・リゼーションの膨張を刺激し、自動車利用の普及は常に予想を上回る発達をなしとげた。その結果として、元来道路整備において著しく立遅れた状態にあった自動車交通は、全国至る所で危険と困難とに直面するに至った。文明の利器であるべき自動車もしばしば無力化し、ときには危機であるかのごとき様相を示す場合すら起った。このことはわが国の道路整備において、従来より長く努力し続けられてきた混合交通方式による改良事業の進展のみによっては解決し得ない問題を提起した。既に海外主要国においては相当に普及しつつある交通の無交差チャンネル化、そうして高速化自動車の高速専用道路の建設がわが国においても必要であるとして、久しい以前から計画され、かねて建設が進められていた。

名神高速道路の開通と東京・阪神の高速道路の一部竣工とによって、わが国でも初めて本格的な都市間高速道路と都市内高速道路の実物が出現した。これらの道路はそれ自体ただちにそれぞれの地域での交通戦列に参加しその利便に役立ち、自動車利用者の好評のうちに使用されているが、現今の自動車時代における交通施設の端著がこれらによって造られた所に意義深いものを感じる。

名神および東京・大阪の高速道路建設に当っては、多額の経費の支出と、広範な人々の努力の注入がなされた。学理と技術との提携は極めて有効に行なわれた。工学・理学・その他広い各専門の協力も常に積極的ななされた。これらの貢献は強く工事を指導し、また推進した。その結果は単にこれらの建設を所期の完成に導いたに止らず、わが国の道路技術——計画・設計・施工の水準向上と能力増大に著しい影響を与えたことは、また注目に値する。

高速道路の建設は今引続き増長工事が行なわれ、さらに若干の新計画も準備されている。わが国土の重要部分が高速道路網によっておおわれるのも、もはや希望ではなく近い将来における現実となってきた。道路関係の技術者は強い自信と、さらに向上への熱意を持って、今後展開するべき大計画の実施への準備をなすべきであるとする。

高速道路計画における基本的態度は、最少の道路網延

長をもって最大の交通効果を得ることに努力すべきである。このことは極めて当然であって、しかも平凡なことに過ぎないが、巨額の経費を投入する高速道路の建設に当っては、特に十二分な検討を必要とする。このためには、交通経済と交通工学との協力による精微な研究の発展に期待せねばならない。

高速道路建設費の低下節減は今後至上の要請であろう。建設事業費項目の詳細な内訳にわたって精密な検討が行なわれ、有効にしてより廉価な工事を行なうよう努めることは全く必要である。名神などの高速道路建設はわれわれにとって初めての経験であった。この経験は今後の改善へと進歩し、そして経費の節約についての多くの要点を与えたに違いない。機械・材料の進歩を積極的に取入れ、道路の計画・設計・施工の全面において、なお一段の向上を望んでやまない。

築造された高速道路は、あらかじめ後年への建設段階を考慮して準備された以外、その後において大規模な改良工事を加えることは至難である。したがって道路の線形・幅員・その他主要構造などの基本的規格は、当初の計画・設計において慎重な配慮を行なうことが必要である。この場合、交通需要との関係において特に過少規格となることを避くべき努力が肝要である。交通需要の実体は常に変化し、その把握はすこぶる難事であって、適確な規格を定めることもまた著しく困難であるが、もし仮に経費などの制約により過少に陥ることがあれば、事実悔を後世に残すことにもなる。基本的規格の設定に対しては幾分の余裕をもって優位に判断すべきことを主張したい。

高速道路の利用を増進するためには、アプローチの整備を軽視することはできない。インターチェンジにおける接続の適否はしばしば出入口の混乱を誘起し本線交通を阻害する結果ともなる。また、交通拠点への連絡の不備は高速道路の使命を制する場合すらありうる。高速道路建設に当っては、関連公共道路整備を含む総合計画の樹立によって、一体的に調和を得た工事の実施を行なわなければならない。このためには、各種道路管理当局の理解と協力を必要とする。

高速道路網発展のため各層各般にわたる技術者のいっそうのご勉強を期待してやまない。

* 正会員 工博 日本道路公団 副総裁